

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き生きる」を運営理念とし、管理者と職員はその理念を共有し、皆一丸となってケアに取り組んでいる。	入居者の意欲を引き出し、役割を見いだされるよう個別計画・ケアに力をいれています。月1回の会議において、職員・リーダーは理念共有について再確認し合い、日々のケアに繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1月には地区の公園にて、地域の方々と一緒にどんど焼きに参加し、交流をしている。また、毎年行われる餅つきには、近所の方々へも参加して頂ける様に声掛けをしている。	自治会に入会、会合にも積極的に参加し夏祭りその他の行事では、参加交流を図っています。町内にある他のグループホームと、医療関係の事業所と合同の交流会の計画をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	天気の良い日には地域の公園に散歩に出かけ、近隣の方に会うときは、挨拶を交わし交流をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議では、昼食を一緒に食べて頂いたり、行事へ参加して頂くなどして、施設での取組状況をお知らせして、意見や助言を頂き日々のケアの向上に反映するよう勤めている。	意見をもち、公共機関との交流方法、対応なども市の担当者と連絡を取り合っています。現在は地域の方の出席者が減少傾向です。土地柄、自営業者が多く時間が取りにくいため、無理のないところで行っています。	ご家族等の出席率を上げる取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護申請の更新時に利用者様を窓口へ御連れして手続きをしたり、分からない事は相談したりしている。	市窓口、介護保険課など、相談を含め問題提起などに常々、足を運ばれています。市職員は協力的です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間防犯上のため施錠をするが、日中は一切の施錠はしておらず、服薬による拘束も含めて、身体拘束をしないように工夫をしている。	ミーティング・カンファレンスの中で、ケア方法を常に話し合っています。現在薬を減らす、言葉の抑制をなくす方向で進めています。玄関前に休憩ベンチを設け、心理的誘導などに努め、又その方の様子から、頃合いを見て外出を促すなど、全員で取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は虐待防止のための研修に参加し、学ぶ機会を持っている。虐待は絶対にあってはならない行為である事を全員が理解してケアを行っている。また、積極的に休憩時間を取るようし、職員にストレスがたまらないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する研修に参加し、御家族から相談があれば答えられるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者の御家族に対し十分な説明をして、疑問などがあれば納得のいくように詳しく説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に『御意見箱』というものを設置し、御家族や外部の方の意見を取り込めるようにしている。	ご家族に明るく接し、気軽に話しかけ、投げかけホームに足を運び易くする工夫をしています。遠方の方には必要時は、ホームから出向き書類を手渡す、話を聴く、等聞き取る努力をし運営に反映させています。	入居者・家族でも、言い出しにくい方、内容、受け取る側など、見えない部分の見つけ方の取り組みに期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各ユニットのリーダーと会議を持ち、職員からの意見や問題などの検討をする機会を設けている。	職員からの意見問題提起は常々上がり、月1回ホーム長・各ユニットリーダーとの会議で取り上げ困ったことや方針など話し合い、運営に反映される仕組みになっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末などに、職員に向けて自己評価を行い各自の状況の把握に努め、委員会を設置し責任を持って力を発揮できる場の提供をしている。又研修等にも各自が興味を持ったものに参加できるよう掲示している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の経験年数や職場での置かれている状況等によって研修に参加し、活かせるよう心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市内のグループホーム連絡会に於いて、交流実行委員として施設を代表して職員を参加させて、他の施設との交流をしている。また、他の施設との交換研修を年1回行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は利用者に対して声掛けを充分にして、利用者の要望や不安な事、困っている事などを伺い、その情報を職員が共有して安心していただけるケアに繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は家族に対して連絡をこまめにとり、家族の要望や不安な事、困っている事などを伺い、その情報を職員が共有して安心していただけるケアに繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に十分な聞き取りをし、その情報を元に実際の利用者の状態観察を行い、必要としている物を把握するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と一緒に食事やおやつ作りなどの日常生活を送りながら、貴重なお年寄りの知恵を教えていただく事が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族との時間を持てるように、ホームでの行事の時には家族も参加して頂けるよう声をかけている。利用者が不安であるときや状況に応じて、家族に連絡をして協力をしていただいたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の御友人の方など、いつでも気軽に来て頂けるようにしている。	1Fでは、入居者の希望があり、ご家族と話し合い、自宅までお連れすること、馴染みの店に買い物にも出かけることもあります。入居者との関わりから情報を得る努力を皆で心がけ、馴染みの場所を探っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の利用者の性格などを考慮し、食事の席順を考えたり、職員が間に入り関わる事によってより良い関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた利用者を現在入居中の利用者と一緒に訪問するなど、必要に応じて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のカンファレンスの中で、利用者の希望等を話し合い、実施できるよう勤めている。困難な場合は家族の協力を得るなどして可能な限り意向に添えるよう努力している。	一人一人の日常の様子から希望・意向を見つけ出し、職員は情報を共有し意向に添えるよう検討しています。2Fではご家族の協力を頂き、週1回の帰宅をお願いしている場合があります。	日常の暮らし方の中でも、更なる情報収集に期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族からの情報を元にアセスメントシートが作られており利用者の生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事やおやつの時間は決まっているが午後には個々に好きなように過ごす事が多く、利用者に関心した趣味活動の提供やレクリエーションの提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員ミーティングの中で利用者のカンファレンスを行い家族や関係者からの情報を元に話し合い、ケアに活かしている。	毎月3名の方を、各担当者・全職員の持つ問題点などを検討し、中身の濃い計画書を作成しています。家族の意見も取り入れ、オムツの経費を軽減するなどを盛り込み、ケアに反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日常の様子は経過記録として記入されている。その記録は職員間で共有され、申し送りなどを通して実践に反映されるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に合わせて、その都度検討され、実行後モニタリングして、サービスが適切であったか判断され、申し送り等でその情報が共有され、サービスが継続して行われるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要であれば地域資源を活用し提供できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の病院と連携を取り、利用者の体調管理を行っている。受診や受診の状況は管理者等を通して家族に報告し安心して頂ける様に努めている。	日常の様子把握は、ホーム側で出来ている為、要望を受け通院介助をしています。受診状況等は家族と連絡を取り合い、安心に向け努力をしています。必要時は連携のとれた病院を紹介しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護日誌を作成して、職員と看護師間の情報交換に利用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、ホームでの情報の提供に努め、治療が円滑になされるように協力をしている。また、管理者等が入院中は病院に通い利用者や家族病院相談員と面会して、退院等が円滑に行くよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の今後の方向性や対応については、医師の情報や家族の意向を元に、カンファレンスや、状態の変化時に検討してケアに反映するよう努めている。	重度化した方には、それぞれに合わせた対応をしています。人間らしく最後まで、と希望されるご家族と、看取りの同意書をとり交わし、最後の入院先を見つけ、主治医も了承し、職員が一致するための話し合いも重ね、チームで支援する取り組みをしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡シートや緊急時対応マニュアルを作成して急変時の対応にあたっている。また、消防署実施の講習会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練と、緊急連絡の伝達訓練を行っている。その際近隣の方にも声掛けをしている。	消防署の指導などを生かし緊急時の対応訓練を行っています。2階からの避難誘導を全職員で工夫実行しています。近隣との交流に努め、お付き合いは大切にしてホームの状況の理解を求めています。	緊急時の対応訓練、安全対策等、職員間の意識向上の取り組み、協力体制作りの更なる充実を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重して、優しい言葉かけを行っている。	入居者一人一人の人格を尊重するよう、職員の言葉づかいには常に注意しています。	入浴誘導の際の言葉かけなど、人格尊重において、更なる取り組みを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者の表情や言葉の中から、利用者の思いや希望を読み取り、出来る限り利用者の思いに添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調や気持ちを汲み取り、サービスを提供し、無理強いほしないよう心がけている。また、いくつかの選択肢の中から本人が自由に選べるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の提供や、衣替えの際には、本人と一緒に服を購入しに見に行くなどしている。外出時はその時期に合った服装選びなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食職員と一緒に食事の準備や片付けなど出来る事は参加していただくように努めている。献立をたてる時には何が食べたいか聞くなどして、食べたい物が提供できるように努めている。	残量チェックをし、好き嫌いの把握や体調に配慮して、なるべく好みに合うよう努めています。食後は職員が洗った食器を、数名の方が籠を囲んで拭いておられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事委員が居り、1週間ごとに献立表の点検をしている。また、食事量や水分の摂取量が把握できるように日誌に記入して利用者の状態の判断材料としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後できる方には自分でやって頂き、出来ない方には職員が口腔ケアを行っている。また、1週間に1度口腔衛生士の方と歯科医師が訪問し、衛生管理をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを排泄チェック表から把握し、失敗の無いようにその人に合わせて声かけをし、その人に合わせた時間誘導を実施するよう努めている。	一人一人に合わせたパターンを把握し、トイレ誘導をしています。退院後のオムツ外しが成功した方もおられます。夜間のみオムツ使用の方もカンファレンスしパット量を減らしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体質等を考慮し毎朝飲める方には牛乳を提供したり、薬の調整を行っている。また、月1回栄養士の方に献立表をチェックしてもらいアドバイスを受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助の方法や利用者の状態にあった器具の工夫をして、安心して入浴できるようにしている。また、入浴したいときに入れるように柔軟に対応するよう努めている。	更衣所の温度や、音楽を流す等入りやすい環境作り、声かけ方法等に工夫をされています。	人格尊重など言葉掛けの配慮を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の習慣や体調によって、午後にお昼寝の時間があり、天気の良い日には布団を干すなど心地よく休んでいただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の個々のファイルの中に、薬剤情報があり職員はいつでも閲覧することができる。また、変化のあったときには看護日誌に記録することで医師に情報が伝わるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや食事の準備、後片付けなど役割を持ってもらっている。担当職員が個別の援助計画を立て、趣味活動や外出などしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出かけたいところがあれば可能な限り担当職員が付き添って外出をしている。また、家族にも希望を聞いている。	天気の良い日は、近くの公園まで一列になり散歩や川沿いのベンチへ日光浴にでかけます。月曜日は野菜を買いに、希望者を誘って一緒に出かけています。又希望や季節に合った計画をつくり外出の機会を作っています。	ボランティアの確保の工夫、ホーム長が考える、社会参画できるような工夫を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には金銭を所持してもらい、遠足などの外出時にお土産を購入するなど本人の希望で使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年職員が支援して、家族へ年賀状と暑中見舞いを出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間においては、光の強さや温度などに注意して不快感の無いようにしている。また、居間や廊下には作業活動でできた季節ごとの壁飾りを展示している。	日当たりの良い居間は柔らかな光が入り、ペランダには布団や洗濯物が干され、生活感が溢れています。廊下や居間の壁にある共同作業の作品は季節感を表し、楽しさが表れています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置を考え、一人でいられるような場所と、皆で作業ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に持ちこまれる家具は、自宅で使用していたものを持参していただくようにしており、各自が使い勝手の良いように、好きなように部屋づくりをしている。	使い馴染んだ家具・ベッドが備わり、各自の手作り物、家族の写真等が沢山飾られています。一人一人の個性が演出され、居心地よく工夫されています。各階ともに、愛着のある品は、安心感をもたらしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	タンスの引き出しの中身が分かるように表示したり、各居室に表札をつけたりしている。		